

※ 本コラムは、共同通信社より配信されたものです。

## 健康問題に着目

### 企業の成長力を左右

「グルテンフリー」の食品が北米で売り上げを伸ばしています。米国には、小麦や大麦、ライ麦などに含まれるタンパク質のグルテンを食べると小腸で炎症を起こす「セリアック病」の患者が約300万人もいて、基準以下の量しか含まないグルテンフリーの食品を必要としているそうです。

2008～12年の間、北米でのグルテンフリー食品の売り上げは、毎年、平均で10%以上伸びたといいます。今後の5年も毎年10%近く成長するとみられています。

一方、新興国では経済成長によって生活習慣が変わりました。動物性のタンパク質や脂肪を多く取ったり、デスクワークが増えたりして、肥満や糖尿病になる人が急激に増えているようです。

世界の糖尿病の患者は12年の3億7100万人から、30年には5億5200万人まで増加するとみられています。さらに新興国では多くの患者が低所得層で、十分治療を受けられない恐れがあります。

中南米や中東、アフリカには健康診断さえ受けていない人もたくさんいます。病気の治療や健康状態の改善に関わる企業は、今後、世界的な需要の高まりを背景に大きく成長していくとみられ、投資対象として注目されます。

欧州では、健康問題を企業にとってのビジネスチャンスおよびリスクとして捉え、本業の中での取り組みに注目し、改善を目指す企業を評価する仕組みを築いた証券会社もあります。企業の健康への取り組みは、成長力や競争力を左右して将来の事業活動に大きく関係してくるでしょう。（株式会社グッドバンカー）